

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 34

1. 基本情報							
＜1＞事業・業務名		桜の里親づくり事業			＜2＞事業・業務の別		事業
＜3＞選定基準		③ 平成29～30年度総合計画実施計画の計上事業			＜4＞継続評価・新規評価の別		継続評価
＜5＞ 総合計画 基本計画 での体系	大項目	5 災害に強く 快適で住みよい 夢を支えるまちづくり			＜6＞担当部(局)		建設水道部
	中項目	5-3 みんなの暮らしを支える生活基盤整備			＜7＞担当所属		道路課
	小項目	5-3-3 道路			＜8＞担当係等		思川桜管理係
	施策	市民との協働による道路環境づくりの促進					
＜9＞根拠法令・計画等				＜10＞関連・類似事業		桜堤整備事業	
＜11＞会計		一般	会計	＜12＞予算科目		8 款 3 項 1 目	
＜13＞実施期間		13 年度	～	年度	＜14＞全体事業費		千円
＜15＞実施手法		直営		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -								
＜16＞事業・業務の概要		桜の里親制度により里親を募集し、思川桜を植樹する						
目的	＜17＞事業・業務の目的	思川をより一層魅力ある川とするため 住民参加による美しいまちの環境づくりのため						
	＜18＞事業・業務の対象	思川の景観・里親制度により植樹する方						
手段	＜19＞平成29年度の活動内容	桜の里親の募集、桜の里親記念植樹祭の開催(島田地区 39本植樹)						
	＜20＞活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
		植樹祭の開催回数	回	2	1	1	1	100.0%
	里親の募集	人	100	39	50	32	64.0%	
成果	＜21＞事業・業務の成果	桜の里親の人数を増やし、思川を美しくよりよい環境にする						
	＜22＞成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
		総植樹本数	本	2,010	1,986	2,036	2,025	99.5%
	総里親数	人	1,822	1,761	1,836	1,822	99.2%	
コスト ～資源の投入量	＜23＞投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)
	コスト	千円	5,411	2,720	3,624	2,701	74.5%	
	事業費等	千円	3,968	1,277	2,185	1,262	57.8%	
	財源内訳	国・県補助金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	3,968	1,277	2,185	1,262	57.8%
人件費	千円	1,443	1,443	1,439	1,439	100.0%		
	正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.2	7,214 × 0.2	7,195 × 0.2	7,195 × 0.2		
	他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×		

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の 妥当性	1.妥当である	理由	住民参加による思川の景観向上という観点から、里親制度による植樹は妥当である。 河川占用から里親の募集・植樹祭、その後の管理まで一連の業務であり、市が実施すべきである。
		<25> 手段や実施手法の 妥当性	1.妥当である		
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	植樹箇所の選定が難しくなっており、人があつまりにくい(住宅からはなれた)場所しか残っていないので、より広くPRをする必要がある。
	効率性	<27> 事業費や人件費の 削減余地	2.事業費の削減余地がある	理由	県立小山北桜高校からの苗木の供給が安定すれば、苗木購入代が抑えられる。
	公平性	<28> 受益者負担の 適正化余地	1.適正	理由	H29年度の事業実施をふまえ、改善の余地はない。
	<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	平成13年度からの事業であるため、植樹箇所が限定されてきており、植樹可能箇所でも住宅地から離れているため応募の件数が少なくなってきた。また、毎年増え続けることによって管理費(占用箇所の法面の除草など)が増加している。	

4. Action - 改善 -

事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等	今後の課題について、箇所の選定や募集本数の調整、魅力的なPRをしなければならない。また、植樹本数・植樹箇所の増加により河川占用面積が増加し、天端や法面の除草面積が増加しており、管理費の増加につながっているため、管理についても適正化・効率化の必要がある。			
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	着実に里親は増加し、桜堤の整備も進んでいる。さらなるPRにより思川桜堤を小山ブランドとしていく。
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	占用地(堤防)の除草、増加する維持管理業務を効率よく執行する。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<33>実施計画	思川桜の里親を募集し、思川桜の植樹を行う。	<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
						計画	計画
				コスト	千円	3,003	3,624
	<34>活動・成果目標	桜堤を形成し、憩いの空間を拡大させる。		事業費等	千円	1,564	2,185
				人件費	千円	1,439	1,439